

4

July 2003

素顔の阿蘇を探す旅。

“●”はすべての原点、“○”は蘇生。
阿蘇は原点に返って復活する場所。
素顔の阿蘇に触れ、
自分自身を探してみませんか。



大陸

ASO Continent

(ファームロードWAITAから阿蘇五岳)

阿蘇カルデラツーリズム

ツーリズムとは、農村を訪れ、人々と交流し、その生活に触れたり様々な体験をする新しい旅のスタイルであり、また一次産業をベースに産業の複合化を図り、地域の経済基盤を作っていく活動でもあります。

阿蘇カルデラツーリズムは、阿蘇地域におけるグリーンツーリズム（農村を楽しむ旅・タウンツーリズム（商店街を楽しむ旅）エコツーリズム（自然を楽しむ旅）などの総称。ゆっくり歩く、自転車で走る程度のスピードで、農村や自然が持つ阿蘇カルデラ空間と外輪山地域を活用した、自動車で通り過ぎるだけでは味わえない素顔の阿蘇に触れる旅のカタチです。ガイドブックを聞いて、農村集落や町の通りでの阿蘇ひとのおもてなしや自然案内人が誘うエコツアーなど自分の楽しみ方を見つけましょう。



町なかの人情に満ちた
タウンツーリズム

魅力ある商店などをゆっくり散策したり、試食しながら遠征した人と交流することで、町の中心部である商店街を堪能することができます。



大自然をそのまま楽しむ
エコツーリズム

地域の自然や文化に敬意を払い、自然に負荷をかけずに楽しむ旅。阿蘇の自然に詳しい地元の人々が火山、ブナの原生林、溶岩洞窟、草類など、まだ知られていない素顔の阿蘇へお連れします。



農家の暮らしのお蔭分け
グリーンツーリズム

観光農園、農家レストラン、農家民宿、直売所など、阿蘇地域の農村を訪れて散策しながら、食べものと笑顔とおしゃべりで、そこに暮らす人々と交流し、その生活に触れてみましょう。

タウンツーリズム in 小国町

Town-tourism in OGUNI

商家と農家の 新しい関係づくり

阿蘇郡小国町は、6年前に全国ではじめて、都市と農村をつなぐ人材を育成する「九州ツーリズム大学」創設に取り組んだ。グリーンツーリズム先進地である。その小国町で商家と農家の新しい関係づくりとして「タウンツーリズム」の動きが出てきた。人口の約半数を占める宮原地区は小国の「街なか」。ここには役場や警察署、居酒屋、洋食屋、蕎麦屋に、お肉屋・時計屋・映画館までそろって、生活を潤す施設や手段に事欠かない。また縦横に水路が走り、中心を静川が流れる「水の街」でもある。まちづくりのメンバーである北里さんにタウンツーリズムについての全体のお話を伺った後、静川のせせらぎを聞きながら「街なか」を散策してみた。



小国町商店街について楽しく話してくださった北里さんに夫婦、日中から本格的にタウンツーリズムの取り組みが出来る事を、「これから、です」話す北里さんの言葉がとても力強かった。





【左】「そば処 かが水」は旧油屋を改装して食事処に、また中心市街地活性化事業（※小国ティエムオー）の事務所でもある。地元産のそば粉と豊富な水を利用した蕎麦を提供することで、町内の雇用創出および蕎麦打ち職人の育成、そしてまちづくりに関する情報を提供する。

【右下】そば職人の児玉さんは、実は旧館の富士屋ホテルをはじめ、海外などで活躍されたフレンチの料理人。「素晴らしい食材と水がある小国に戻って料理をしたい」と故郷・小国町に戻った。そば打ち職人を育成しながら、これからは無国籍やフレンチの職人を目標する人も受け入れる予定だ。「かが水は料理人を育てるところであり、もっと町の人が気楽に入れる店にしていきたい」と語る。



商店街も同じこと。だから商店街にもツーリズムがあつていいはず。農家の人たちとも連携して、住んでいる町民も、そして訪れる人々も楽しく過ごせる商店街になれるよう期待しています」と九州ツーリズム大学の江藤副理事長は商店街の取り組みにエールを送る。

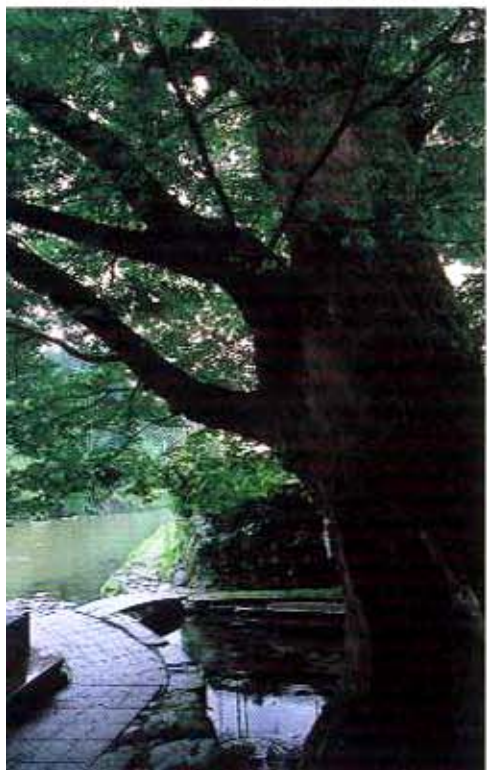
これからは行政とも連携し、遊歩道や公園などの整備を進めながら、小国の魅力を商店街でも堪能してもらう散策路をつくる計画だ。

個々の取り組みがやっとながる、小国町の「農業+観光+商業」の新しい関係づくりの一つとして、タウンツーリズムは今、産声をあげたばかりだ。



タウンツーリズム
in
小国町
Town tourism in OGUNI

樹齢千年、幹回り7.5m、この川や池の下から湧き出る水が「水」の街「蕎麦」のシンボル「ケヤキ水」である。新緑の心と身体を癒す場所が、街の中にある。



創業130年の「丸三蕎麦王酒店」。15年前にも小国町にもバイパスができたとき「郊外化が叫ばれているときやったから、商店街から人がいなくなるかもしれないと思った」児玉さんは、それから積極的に街づくりに関わることになった。「これまでの様々な活動がやっとながらなりそうです」と語る。市町村長が就任する前に、小国町をPRしようという取り組みを始めたことに注目。小国町をふんだんに使った「かが水」は、昔の蕎麦屋（土蔵の上に築き上げた）のイメージを取り込んだもの。



ズム大学の開校に着目し、一期生として聴講することに。これが北里さんの今後を大きく変えることになるのは、本人も予想だにしていなかったのだろう。多彩な講師陣や参加者同士の交流など、参加するたびに刺激を受け、また農村の何気ない風景、例えば農具や薪の置き方、干し柿や玉ねぎなどを吊るす光景の美しさなど、身近にある小国の魅力に徐々に気づいていったという。

そうしていくうちに「もてなしのフロアである商家が農村の良さを多くの人に伝える役を果たし、農家と手を携えることができるんじゃないか」と考えた北里さんは、ツーリズムを広げようと商店街の人に声を掛けていった。自らの意思で取り組みることが重要だけに、広がりはずつくりだが確実に裾野は広がっている。「元気をなくしているのは、農産物も

商店街にもツーリズムがあつていい。

「もつとすぐ休憩所や公園もできるんですよ」と街の様子を話そうに話したのは、小国町の中心市街地活性化事業の主要メンバーであり、ギャラリー北里の店主・北里純一さん。小国で生まれ育ち、大阪の広告代理店に就職するも、家業の時計屋を継ぐために小国に戻ったリターン者だ。6年前、商店街には昔のような活気がなく「何かやらなくちゃいけない」と思っていた北里さんは、同町の全国初ツーリ



創業80年の歴史を持つ内屋「丸三蕎麦王酒店」。入り口には暖炉の景観が並び、戸を開くとレトロな空間が広がる。暖炉の中にツクスが焚かれ、中央に燃える炉のショーケースが輝きを放つ。店内で漬物が並び、お蕎麦を会へたりお蕎麦やエビロシが売られている。ちょっとお蕎麦屋の雰囲気だ。「私たちの好きなものを売りたいから、気がいらないけど、こんなお蕎麦屋になっただけです」と楽しそうに語る北里さんと夫婦。いつの間にか店内とお客さん同士が会話している。そんな趣のタッパリの内屋だ。

分譲式の古い大時計が並ぶ「ギャラリー北里」は、時計をはじめ服・雑貨などの商品を並べて街の賑わいに貢献。川岸と敷地すべてを再建することで「ギャラリー」を運営することから、夜更コーナーも併設し、街にある自由の気風はこの町に注ぎ込んでいる。「ここからの川の風景が小国らしくて好き、多くの方に楽しんでほしいです」



グリーンツーリズム in 西原村

Green-tourism in NISHIHARA

農村の豊かな食のお裾分け

都会とは違うゆっくりとした時間が流れ、自然・食・文化など昔から変わらぬ「本物」がある農村。ここでゆったりと休暇を過ごそうというのがグリーンツーリズム。西原村は、村で培われてきた食文化・生産物を通して村を訪れる多くの「旅人」と交流している。今回はその中の一つ「からいもまんじゅう」を取り上げ、西原村の食と人に出会ってきた。

みきばあちゃんの手づくりまんじゅう

外へと広がる村の食文化。

朝4時。みきばあちゃんの日はずい早い。原料は自分の畑で採れた物や近くで摘んできたものを使い、まだ暗いうちから、からいもまんじゅうをはじめ、よもぎまんじゅう、米の粉団子などの「みきばあちゃんじゅう」を作り始める。1回に300個、それを夕方までに4回繰り返し、しかしこれだけ作ってもすぐに品切れになり、催促の電話が入る。「忙しかばってん、うれしかです」。みきばあちゃんはまんじゅうを丸めながらそう言っています。みきばあちゃんこと、広瀬みき代さん(64歳)は、西原村生まれの西原村育ち。西原村は熊本県でも有数のさつまいも栽培の産地で、からいもまんじゅうは余った手を使っておやつとしての家庭でも作られているものだった。みき代さんも、10年以上前に知り合いのおばあちゃん



遊覧したご主人とみき代さんのあつんの家で、梅口「みきばあちゃんじゅう」は作られる。

んに教わってつくり始めた。「せつかく作ったけん」と、村の祭りや地区の寄り合いなどに差し入れるうちに、村人の間で評判になり、物産館オープンの際声がかかった。「どうせ出すならもっと良い物を」と研修に出かけ、自分なりのア

イデアも加え、誰にもまねできない今の「みきばあちゃんじゅう」を作り上げたのは、ほんの数年前のことだ。今日もみきばあちゃんは、ふるさと西原村の豊かな自然の恵みをまんじゅうにし、多くの人に届けている。



【上】食材は、早く原料を買い集めてくれるみき代さんの手は止まらず、夜とまんじゅうが出来上がる。【中】100個をばいり期間3ヶ所を売られており、いつも売り切れる盛況ぶり。商品の梱包や販売など、配達まで主人のお仕事にそう。

俵山交流館「萌の里」

「みきばあちゃんじゅう」をはじめ、西原村の産物加工品などが数多く集まるのが、「萌の里」に採れたての新鮮な野菜や、近海村産の産物や新鮮な魚介類、産物加工品など、品揃えがよいく安価でおいしいうちわさ。俵山交流館「萌の里」から直ぐに届く。すべての産物に生産者の名前が書かれており、作る人にとっては、責任感があふれる。人にとっては生産者が分かる安心感がある。人口の四分の一を占める65歳以上の高齢者の多い西原村にもなっており、村を挙げて西原村をアピールする発信として役割を果たしている。



熊本県阿蘇郡西原村大字小森2115-3 TEL:096-292-2211 FAX:096-292-2213

ミルクの里

「美味い自然の恵み」(隣の里)の近くには、標高1400mの山田牧場があり、自給自足の環境の中で、健康に育った牛が飼育された。安心して安全な搾乳した牛乳や自家製のソフトクリーム、ジェラートを楽しめる「ミルクの里」がある。



熊本県阿蘇郡西原村大字小森2115-3 TEL:096-292-2211

スロースローな阿蘇づくり

「スロースローな阿蘇づくり」とは、農村や自然の持つ素顔の阿蘇の魅力に触れたり、自然案内人や地元の人との交流によって阿蘇の素顔に触れる新しい旅のスタイル。今回は阿蘇全体で左記の日程で実施します。

日程 ● 10月18・19日 10月25・26日 11月1・2日 各土、日曜日の6日間
主催 ● 熊本県、阿蘇郡12町村、(財)阿蘇地域振興デザインセンター
内容 ● 交通実験
阿蘇カルデラツーリズムをより楽しむため交通アクセスをネットワーク化しました。

パークアンドライド

渋滞緩和のため、「R」道路(熊本大津町)沿いに駐車してマイカーを一旦駐車し、公共の交通機関(阿蘇カルデラバス)を利用して目的地まで移動し、利用後は「R」道路(阿蘇カルデラバス)で目的地まで移動し、マイカーを再び利用します。

サイクルトレインの運行

「R」道路(熊本大津町)沿いに駐車してマイカーを一旦駐車し、公共の交通機関(阿蘇カルデラバス)で目的地まで移動し、利用後は「R」道路(阿蘇カルデラバス)で目的地まで移動し、マイカーを再び利用します。

阿蘇カルデラツーリズム

阿蘇カルデラバスは、阿蘇郡の12町村それぞれのおもてなしを堪能できます。商店街や町並み散策や、阿蘇カルデラツーリズム、交通系(阿蘇カルデラバス)と、自然案内人付きで阿蘇の自然体験(エコツーリズム)を体験し、上記の交通手段を活用して、阿蘇の魅力を堪能してください。



お問い合わせ
阿蘇公共交通利用振興推進協議会
事務局(財団法人阿蘇地域振興デザインセンター内)
TEL:0967-22-4801 FAX:0967-22-4802

全国エコツーリズム大会in阿蘇

世界的なカルデラや雄大な草原を有する阿蘇地域で自然と文化をテーマとした参加体験型の観光・交流である「エコツーリズム」全国大会を開催します。九州及び阿蘇地域におけるエコツーリズムの在り方のシンポジウムや分科会、地域内の拠点施設を活用したエコツアーなどを行います。

- 日程 10月31日(金)～11月2日(日)
- 開催地 国立阿蘇青年の家及び阿蘇地域の観光交流施設
- 主催 全国エコツーリズム大会in阿蘇実行委員会
(財団法人阿蘇地域振興デザインセンター、NPO法人日本エコツーリズム協会)



- ◆第1部 会場:国立阿蘇青年の家/10月31日(金)
 - 基調講演1 「今、エコツーリズムが問い掛けるもの」
 - 基調講演2 「阿蘇エコツーリズムの魅力」
 - シンポジウム 「阿蘇の環境地域づくりとエコツーリズムを考える」
 - ウェルカムパーティー&情報交換会
- ◆第2部 会場:阿蘇地域内の観光・交流施設8ヶ所程度/11月1日(土)
 - エコツアー&フィールドワーク 約10コース
 - エコツアー&フィールドワークの意見交換会
- ◆第3部 会場:国立阿蘇青年の家/11月2日(日)
 - エコツアー&フィールドワーク報告会
 - テーマ別分科会討議
 - 総括シンポジウム

◆問い合わせ先◆
「全国エコツーリズム大会in阿蘇」
実行委員会事務局(財団法人阿蘇地域振興デザインセンター内)
TEL:0967-22-4801 FAX:0967-22-4802
E-mail: asopost@asodc.or.jp

※上記内容はあくまで予定で、今後変更する事もありますのでご了承ください。
なお、詳細が決定次第事務局のホームページ(www.asodc.or.jp)にて掲載していきます。

ASO Design Center Information

(財)阿蘇地域振興デザインセンターは阿蘇郡12町村の地域づくり、観光振興、環境・景観保全、情報発信を行なっています。

EVENT情報

高森風鎮祭

250年の歴史を持つ祭り
で子供手踊りにわか、
日用雑貨を使った造り
物が町を練り歩く『山
引』、花火大会などが
行われます。



期日 ● 8月17日(日)~18日(月)

場所 ● 高森市街地

お問い合わせ ● 高森町商工会 TEL.09676-2-0274

火伏地藏祭

400年の歴史を持つこの祭
りでは石地藏を御輿にのせ
練り歩く『裸みこし』が勇壮
です。日常生活品や農具など
で造られた『造り物』も見逃
せません。(花火大会あり)



期日 ● 8月23日(土)~24日(日)

場所 ● 蘇陽町馬見原周辺

お問い合わせ ● 蘇陽町商工会 TEL.0967-83-0037

俄山火まつり

4mの大堤殻や湖面に浮か
ぶ『大』文字燈籠流し、俄山
の山肌に浮かぶ『鳥居型』火
文字が幻想的です。



期日 ● 8月16日(土)

場所 ● 俄山交流館頭の里周辺

お問い合わせ ● 西原村商工会 TEL.096-279-2295

吉原神社大祭

国指定の無形文化財。
100年以上の伝統があ
る吉原岩戸神楽を神社
に奉納します。



期日 ● 9月20日(土)
15:00~

場所 ● 吉原神社

お問い合わせ ● 南小国町役場林務観光課
TEL.0967-42-1111

地場づくりやツーリズムに
興味のある人、ままれ!!
ボランティアスタッフの募集

財団法人阿蘇地域振興デザインセンター
では、本年10月に実施する「スローな阿蘇
づくり」での阿蘇カルテラツーリズムや全
国エコツーリズム大会のボランティアスタ
ッフを募集し
ます。参加で
きる日程を6
P参照のうえ、
郵便かDAX、
もしくはメー
ルで左記まで
お申し込みく
ださい。地域
づくりやツー
リズムに興味
のある方は是非、
ご応募ください。
なお、決定は連絡を持って替えさせていた
だきます。また、応募が多数の場合は抽選
となります。



●申し込み先

(財)阿蘇地域振興デザインセンター
ボランティアスタッフ募集係

〒869-2661-2

熊本県阿蘇郡一の宮町長門24402

TEL.0967-222-4801

FAX.0967-222-4802

mail: asoaps@asoc.or.jp



阿蘇遺産

『阿蘇遺産』のお申し込みについて

今号でご案内した『阿蘇遺産』をご希望の方は下記宛に
電話、FAX、またはメールにてお申し込みください。

オールカラー80ページ、A4版、1500円(送料別)
(送料:全国一律200円/1冊、3冊以上の場合は500円)

(株)マインドシェア九州 九州のムラ出版室
TEL.092-841-3751
FAX.092-841-3743
メール: kyumura@mindshare-kyusyuu.com

